

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
208	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Illicit alcohol consumption and neuropathy – a preliminary study in Sri Lanka 違法に蒸留されたアルコールと神経症 – スリランカにおける予備調査	
執筆者	
Ferdinandis TG, De Silva HJ	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2008;43: 171-173.	
キーワード	
illicit alcohol consumption, nerve function, neuropathy 違法蒸留酒、神経機能、神経症	
要 旨	
<p>目的：                      違法に製造されたアルコールを飲んだ場合と、合法的に製造されたアルコールを飲んだ場合で、飲酒が末梢及び自律神経機能に与える影響が異なるかについてスリランカのデータで比較する。</p> <p>方法：                      健康な対照群 40 人と、違法に製造されたアルコールを飲む 41 人及び合法的に製造されたアルコールを飲む 17 人からなる 2 群の慢性的多量飲酒者で、末梢神経伝導速度と自律神経機能に違いがあるかを検討した。</p> <p>結果：                      いずれの飲酒者においても、下腿の運動及び感覚神経の伝導に関する項目で傷害が見られた。対照群に比べて、違法に製造されたアルコールを飲んだ者では、全ての副交感神経の機能を調べる検査において平均心拍数の指標は低い値であり、一方合法的に製造されたアルコールの飲酒者は起立時の心拍数の反応が傷害されていた。これらの検査で、違法もしくは合法的に製造されたアルコールを飲んだ者の間では結果に差はなかった。</p> <p>結論：                      慢性的多量飲酒は末梢及び自律神経の損傷を招くが、その損傷の程度は違法に製造されたアルコールの方が合法的に製造されたアルコールに比べて大きいということとはなかった。</p>	